



**UNU-IAS / Kumamoto University**  
**The Second Joint Workshop**  
**on Finding Future Visions of our World:**  
**A Sustainable Japan and the World**  
**Dialogue Methodology for Social Change**  
**for A Sustainable Future**

**持続可能な未来に向けた社会変革の対話技法**

6-8 May, 2015; at UNU-IAS, Japan; <http://www.ias.unu.edu>

日本語による抄録集

## K-1. プレゼンテーション・タイトル

[ コミュニティビルディングと若者のエンパワメントと平和のためのバイオエシックス ]

名前：ダリル・メイサー

所属：AUSN

職位：プロヴオスト

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [ レビュー ]

### 要約・概要

平和の定義は多様である。このワークショップでは、平和および平和構築に関してその理論的・実践的分析を行っていく。平和構築そして紛争解決については多様な理論があり、更に平和構築や紛争解決という名前は使われていないが、それに類似したコミュニティー活動の例は多く存在している。

2010年より Eubios 倫理研究所は、American University of Sovereign Nations (AUSN)、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、広島平和文化財団、その他の機関・団体との協力のもと、50の国や地域から600人の若者に対して Youth Peace Ambassador Training Workshops（若者平和大使トレーニングワークショップ）を開催してきた。ワークショップでは、参加者達は協力して平和の文化を促進のための課題発見を行った。これまでのところ、参加した若者たちはそれぞれのコミュニティーにおいて平和の文化を促進するために、250もの行動プロジェクトを開発・展開させてきた。参加者は、あらゆる宗教的バックグラウンドと幅広い関心を持つ層からあり、平和へのマルチ・ディシプリナリー（多分野）的アプローチを提供した。

こうした平和のための能力育成事業に関する近年の開発の一つとして、AUSNにおけるコミュニティーと平和大学院修士証明書プログラムがある。このプログラムの任務は、地域の全てのグループ間の平和的な関係の構築そして災害後の地域再建のために地域団結の促進である。同プログラムは、地球上全ての地域の生活の質的向上に従事している大学院生たちに、大学院レベルに不可欠な教育、知識、スキル、研究機会、社会奉仕機会、創造的・分析的批判思考力、そしてリーダーシップ力などを提供することで、参加者全ての倫理的思考力を育成するように設計されている。同プログラムは、多様な地域に応用可能な異文化間の生命倫理学習とグローバルリーダーシップに従事したい人、倫理的な公共政策とその実践に従事したい人、そして環境保全と地球上全ての人々の公共の福祉に従事したい人にとっての学びの選択肢の一つとしてのプログラムである。

地域、災害復旧、そして平和は、疾病予防・疾病管理、様々な集団内の心身の健康促進と、集団間の健全な関係の促進、そして全ての人々の地域サービスの利用促進など、様々な課題が絡んでくる複雑な分野で本質的に集学的であり、それらに対応すべく同プログラムではプログラム推進に際して、以下のことを重視している：

- ・公衆衛生の公共財および基本的権利としての意識の促進
- ・倫理的意思決定、文化、そして政治思想の多様性の促進
- ・全ての人々に敬意をもって接することと、地域の団結力向上のための異文化理解の促進
- ・優れた研究と真理探究の促進
- ・全ての人と地域の人権・基本的自由・平和・人間としての尊厳と尊重の促進
- ・災害時及び紛争時の全ての人々の人権の促進と保護
- ・世界中の様々なコミュニティー、国民主権国家、そして国連の倫理理念の理解

地球上の先住民たちの文化・伝統・健康・幸福・権利を守ることは急務の課題となっている。紛れもなく、健康と公衆衛生は、持続可能な地域、社会、或は国家の支柱であり、平和にとって明確かつ積極的な役割を担っている。

## K-2. プレゼンテーション・タイトル





## 1-2. プレゼンテーション・タイトル

[ 持続可能な未来に向けた社会変革の対話技法の一つとしての情報システムの開発に向けて：  
ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムの提案 ]

名前：上島 佳代

所属：独立研究者

職位：独立研究者

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

### 1) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言

#### 要約・概要

日常的な対話を基礎とする様々な共同作業を通じた社会的変革を推進するために、ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメントのための情報システムの開発が必要である。そこで、ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムを Free Think -Tank (FTT) system として提案する。ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムの設計のために、各種のウェブ・アプリケーション・システムやサイト開発のための無料公開資源のコンテンツマネジメントシステム(CMS)である Plone を活用した。尚、Plone はセキュリティシステムを搭載していない。そのため、ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムの通信暗号化のために、FTTシステムの中に、ユーザーのニーズに応じた通信暗号化システムの設定が必要になる。FTT システムと Plone を組み合わせることで、誰もが様々なプロジェクトを運営するための専用のシンクタンクをウェブサイト上に自由に構築できる。

#### 1. ユーザーのニーズに応じて、ユーザーがウェブサイト上で様々なプロジェクトを自由に運営できる情報システムの必要性

- ・小規模プロジェクトから大規模プロジェクトにいたるプロジェクトマネジメントのために
- ・地方プロジェクトからグローバルプロジェクトにいたるプロジェクトマネジメントのために
- ・閉鎖型システムから開放型システムにいたるプロジェクトマネジメントのために
- ・一言語から多言語にいたるプロジェクトマネジメントのために

#### 2. ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムとしての FTT システムの優位性

- ・低コスト:ウェブサイト上でプロジェクトマネジメント・システムを活用することで、組織管理、情報整理、情報格納、情報共有、情報公開のための費用削減
- ・利便性:ウェブサイトへのアクセスによって、ユーザーはいつでもどこでも、プロジェクトに参加可能
- ・高度な安全性:プライベートに管理されたサーバーのもとで、ウェブサイト上での暗号化された通信プロジェクトマネジメントのためのサイト管理人及び各作業グループのマネージャーは、各作業グループのメンバーがアクセスして活用できる情報と機能を制御できる。

#### 3. ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムとしての FTT システムの特徴

- ・閉鎖型システム(例:ウェブサイト上でプロジェクト内の情報を完全非開示)
- ・半閉鎖型システム(例:ウェブサイト上でプロジェクト内の情報を段階的に開示)
- ・公開型システム(例:ウェブサイト上でプロジェクト内の情報を完全開示)

#### 4. プロジェクトマネジメントのために、ユーザーが操作できる機能

1)組織管理機能, 2)情報整理機能, 3)閲覧機能, 4)共同執筆機能, 5)情報格納機能, 6)情報共有機能, 7)情報公表機能

#### 5. ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムとしての FTT システムのデモンストレーション

CMS としての Plone は多言語を供給できる。FTT システムと Plone の組み合わせで、多言語によるマネジメントシステムを次のようにデモンストレーションする。

1) FTT システムの英語版サイト:<http://free-thinktank.org/>

- ・基本的なモデルとしての「Project 1」と「Project 2」
- ・グローバルなプロジェクトマネジメントのための大規模モデルとしての「Ethical management system」

2) FTT システムの日本語版サイト:<http://free-thinktank.jp/>

- ・プライベートなプロジェクトマネジメントモデルとしての「北野ラボ」
- ・地方公共政策についての小規模な研究プロジェクトマネジメントモデルとしての「神戸の震災と神戸市政」

ウェブサイト上でのプロジェクトマネジメント・システムとしての FTT システムと、無料の公開型 CMS としての Plone を組み合わせることで、ユーザーは、プロジェクトの規模、目的と言語に応じた各種プロジェクトをウェブサイト上で開始できる。ユーザーは、ウェブサイト上に FTT サイトのドメイン名と異なる URL とサイト名を作成できる。

#### 1-4. プレゼンテーション・タイトル

##### [ 仏教哲学と持続的世界 ]

名前：田辺 寿一郎

所属：熊本大学

職位：助教

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [ 哲学と心理学 ]

##### 要約・概要

本プレゼンテーションは、持続的世界の模索と実現における仏教哲学の貢献について考察する。創始者である仏陀以来、仏教はどのようにして人間の心が我々の直面している問題の根本的原因になるのか、そしてそれをどう克服するかというテーマを深めてきた。本プレゼンテーションは、この仏教の人間の心の深い分析が持続的世界の構築にどう応用できるかを模索していく。

第一部では、仏教哲学の基礎的思想、特に仏教哲学の根幹である四諦を分析する。第二部では、仏教の暴力論を考察する。第二部のメインポイントは、「条件づけられた心」という概念の提唱とその様々な暴力へのインパクトの分析である。社会的・文化的価値観、規範、思考などに形作られる我々の心がどう我々を様々な形の暴力へと駆り立て、自分とは異なる思想やアイデンティティを有する個人や集団との対話を拒否するのかを考察する。

第三部では、仏教哲学が様々な暴力を我々が克服し、持続的世界の構築が出来るかを模索する。最初に、自己の心の動きを見つめるマインドフルネスの意義とその他者との対話促進へのインパクトを分析する。仏教哲学の視点から見ると、持続的世界の達成には、黙想の実践・認識の変容・他者の苦しみと幸せを自己のものとして感じることの愛情心という我々の心の多機能を重層的に発露させ日常レベルから実践することが重要である。









## 1-10. プレゼンテーション・タイトル

[ 持続可能な天然および人的資源のための社会・自然調和に依拠した沿岸管理事業に対する管理計画 ]

名前: ドノパン・シマヌンカリト <sup>*1</sup>	所属: IGAF LC IPC	職位: 行動計画員
--------------------------------	-----------------	-----------

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [持続的未来のために対話・変容・合意形成が必要な紛争状況]

### 要約・概要

インドネシアは、沿岸および海洋における（利用的）潜在性の高い豊かな国である。マングローブ林、海藻類、そしてサンゴ礁よりなる沿岸地域は、経済部門において最も可能性の高い地域の一つである。首都ジャカルタは、ジャワ島の西北に位置する巨大都市である。巨大都市であるジャカルタは、人口問題、土地制限問題、過密問題に加え、洪水、環境汚染など複雑で多様な問題を抱えている。洪水や汚染などの環境問題は非常に複雑な問題である。ジャカルタ北岸沿いに巨大貯水池という形で建設される巨大防波堤事業は、沿岸計画の一つであり、同計画は段階的にそして継続的に進行中である。巨大防波堤事業は、地下水緩衝としての真水の確保、洪水時の水流の調節、高波からの防御、新土地建設などを目的としている。巨大防波堤建設計画で提案されているものとして、津波や高波に耐え、堤防工事を促進するための特別区設定がある。

この巨大防波堤事業は、地元社会と生態系に大きな影響を与えている。社会的な影響でいうと、巨大防波堤事業は、地元住民の立ち退き問題や社会的不平等を引き起こしうる。というのは、巨大防波堤事業指定地域の住民の多くは中流・上流階級の住民である一方で、ジャカルタ沿岸地域に元から住んでいる住民の多くは漁師であるからだ。生態系への影響でいうと、巨大防波堤事業は、地元の環境汚染、そして沿岸の生態系悪化の原因となる。巨大防波堤事業を巡る問題は、防波堤建設という技術的な問題や環境問題だけに限ったものではなく、投資及び漁業問題など社会・経済的な問題も絡んでくる。現在のところ、様々な投資や漁業事業があるが、ある統計による、2012年の北ジャカルタ地域の経済における漁業関連の事業の割合は、0.10%から0.08%に減少した。本プレゼンテーションでは、巨大防波堤事業における地元の土地取り決め、同プロジェクトが経済的、生態的、社会的に現実性及ぼしている影響、今後及ぼしうる影響について述べていく。更に、現状よりの確かな沿岸管理運営方法についても提言する。

### キーワード

インドネシア、巨大防波堤建設事業、エコロジー、社会・経済的沿岸管理

<sup>\*1</sup> ドノパン・シマヌンカリト<sup>1</sup>、エンガル・ユリア・ワルダニ<sup>2</sup>、水産養殖技術管理<sup>1</sup>、水産資源管理<sup>2</sup>







## 1-14. プレゼンテーション・タイトル

[ 東日本大震災後の対話ストラテジー—紛争変容・平和構築学の視点から ]

名前 石原明子

所属 熊本大学

職位 准教授

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [ ]

### 要約・概要

#### 1. 紛争変容・平和構築の考え方

J・P・レデラックらが提唱した紛争変容 (Conflict Transformation) の考え方では、「紛争(葛藤)がない状態が平和である」と考えるよりは、「紛争(葛藤)こそが、平和への入り口である」と考えている。紛争や葛藤や対立は、その背後に平和でない状態(J・ガルトウングのいう暴力状態など)があるからこそ(逆に言えば、そこに大切な思いなどがあるからこそ)、そこに紛争や葛藤や対立が生まれるのであり、その意味で紛争や葛藤や対立に耳を傾け、その裏にある問題を見極めて、より平和な状態に変容させていくことこそが本質であると考えます。紛争・対立・葛藤を入りにしてこそ、平和を構築できる。

#### 2. 対話とは

紛争変容・平和構築の手段としては、様々な手段がありえるが、対話はその重要な手段とプロセスの一つである。対話とは通常、二者以上の異なった者同士の間で行われるプロセスである。異なった他者同士の間で意味の共有をもとめ、共有された(出会った)と思った瞬間に新しい世界が立ち現れ、また消えていくようなプロセスである。異なった他者同士の紛争において、意味が共有される瞬間は瞬時であっても大切なプロセスである。

#### 3. 震災後に人間関係葛藤がどうして起こるのか

東日本大震災の被災地や被災者の間では、人間関係が葛藤や地域での対立がしばしば起こっており、そのことは、あつれきや分断といった言葉で表現されることもある。なぜ、震災後に人間関係の葛藤が起こりやすいのか。そのメカニズムとしては、いくつかの観点から説明をすることができる(石原 2012, Ishihara2012)

- (1) コミュニティの全体(全員)が傷ついたトラウマ化社会の症状(アウト・オブ・アクト・イン)としてのコンフリクトの増加
- (2) 潜在化していた価値観や世界観の違いが浮き彫りになったこと
- (3) 潜在化していた社会格差と構造的暴力の問題
- (4) 現代の法制度や補償制度が引き起こしている分断や軋轢
- (5) ベーシックニーズの基礎となる自然環境が壊されたときの人間の脆弱性

#### 4. 東日本大震災後の葛藤の中で、そこからどのようにして、つながりあい再生していくことができるのか、そのための対話ストラテジー:多様なアプローチを考える

一つには、紛争変容・平和構築のモデルの中でも、傷ついた社会からの変容と再生に関するモデル、トラウマからの回復の戦略と、特にコミュニティの成員同士で傷つけ合いが起こってしまったような場合には修復的正義のモデルが適用できる。しかし、今回の原発事故のような構造的暴力を含む問題においては、それと同時に構造的暴力への気づきと非暴力社会運動が必要となる。

上記の戦略のためにも、対話は大きな役割を果たす。(1)一人ひとりの心のケアに資する対話、(2)コミュニティや家庭で対立したり傷つけあったりした人同士の相互理解や和解、関係変容のための対話、(3)具体的な政策決定や合意形成のための対話などである。それぞれに使われるべき手法は異なるし、また、適用する時期も異なる。また上記の戦略には、いわゆる対話以外に、ストーリーテリング(語り部)、メモライゼーション(記念と祈念)とミュージアム(記念館・祈念館)、アートによる表現、社会運動や裁判なども重要な役割を果たす。しかし、ストーリーテリング、メモライゼーションとミュージアム、アートによる表現、社会運動や裁判もある形式のコミュニケーションであり、それぞれの形での対話がそこに生まれているともいえる。

#### 5. まとめ

今回のワークショップでは、上記の様々な目的に資する対話実践事例(プロセスワーク、ワールドカフェ、円卓会議、合意形成会議)に加え、語り部や震災復興祈念館、裁判や社会運動の取り組みの事例が発表される。東日本大震災後の対話がいかにあるべきか、あることができるのか、豊かな事例から共に未来を探っていきたいと思う。

<参考文献> 1) Akiko Ishihara, et al. (2012) "Peace building through Restorative Dialogue and Consensus Building after the TEPCO Fukushima 1st Nuclear Reactor Disaster", Eubios Journal of Asian and International Bioethics Vol. 22 (3), 2) 石原明子・岩淵泰・広水乃生(2012)「震災対応と復興にかかる紛争解決学からの提言」高橋隆雄編『将来世代学の構築』九州大学出版会、3) 石原明子(2013)「東京電力福島第一原発災害下で起こっている地域や家庭等での人間関係の分断や対立について—水俣病問題との比較と紛争解決学からの一考察」『熊本大学社会文化科学研究』11. pp.1-21











## 2-5. プレゼンテーション・タイトル

[ 震災復興祈念館・エンターテイメントを通じてうまれる対話  
—新しい形で震災後の福島の学びを広く伝えるために ]

名前：佐藤健太

所属：NPO 法人 ふくしま新文化創造委員会

職位：代表理事

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [ ]

### 要約・概要

この発表では、私たちが行っている活動を通じてどのような対話が福島内外に生まれることを期待し、また生まれてきているのかについてお話いたします。とくに、私が代表理事をつとめる「NPO 法人 ふくしま新文化創造委員会」で行っている活動を中心に、紹介させていただきます。震災復興祈念館・エンターテイメント・対話・伝えるなどをキーワードに考えていきます。

また、今「NPO 法人 ふくしま新文化創造委員会」として行っている活動以外にも、私がこれまでかかわってきた福島での、あるいは、福島からの対話とコミュニケーションの活動のいくつかについてお話いたします。

#### 1. ふくしま新文化創造委員会とは？

ビジョンと目標とすること、設立時期、メンバーや組織、これまでの歴史と活動内容を紹介します。エンターテインメントを中心としたパフォーマンスにより新たな文化をつくっていき、震災後の福島の学びを広く伝えてゆく活動をしています。

#### 2. 活動内容とビジョン、そこから生まれる対話への期待、成果と困難点

- ・ロメオ・パラディッツ
- ・震災復興祈念館
- ・その他

#### 3. これらの活動の中に取り入れている対話

私たちは活動の中で、プランニングや活動それ自体として、多くの対話技法を取り入れています。どのような対話手法を取り入れ、どのような成果が上がっているかを話します。

#### 4. (ふくしま新文化創造委員会以外の) ふくしまでの・ふくしまからの対話やコミュニケーション

ここでは、過去に行ってきたいくつかの活動（ふくしま会議など）を少し紹介します。





## 2-8. プレゼンテーション・タイトル

[ **【活動報告】福島の子どもたちとの長期キャンプにおけるプロセスワーク的アプローチ** ]

名前：武田 美亜

所属：Shanti Daya

職位：freelance ; ファシリテーター ;  
キャリアカウンセラー

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [活動報告]

### 要約・概要

三鷹子どもの楽校は任意の市民団体で、2011年から3年間に渡り、福島の子どもたちと2週間に渡る長期保養キャンプを行いました。完全無料の、丁寧な生活とコミュニケーション、関係構築に拘った場づくりです。

子どもたちやキャンプリーダーである学生たちとの接し方に対し、プロセスワーク的な視点やアプローチを導入しました。今回はそのケースの紹介とアプローチの効果などをご報告します。

2つのケースを報告したいと思っています。

### ケース1) 身体感覚チャンネルとムーブメント（動的）チャンネルからのアプローチ

子どもたちとの関係構築において、身体感覚や動きを重視したコミュニケーションスタイルを導入しました。また、身体感覚に意識（気づき）がいくようなコミュニケーション（フレーミング）技法を使うことで、子どもたちが自分の身体との関係性が変容しました。また、ヘルニアによる激痛で苦しんだ中学生とのワークのストーリーもシェアしたいと思います。

### ケース2) ランク概念を活かしたアプローチ

それぞれの立場が持つ「ランク（特権）概念」についての考え方をもとに、リーダーや子どもたちのエンパワーメントを行いました。こちらが「提供者」、子どもたちや福島の人たちが「提供される者」として関係性を位置づけるのではなく、それぞれがその場にコミットして自分のランクを提供していくことで、よりフラットな関係構築につなげました。

## 2-6. プレゼンテーション・タイトル

### [ 震災における語り部の役割と自己受容 ]

名前：高村 美春

所属：原発震災を語り継ぐ会

職位：主宰

ご発表は下記のどれに当てはまりますか（しるしをつけてください。複数回答可）

- 1) 対話実践に関する報告（成功点と困難点含めて）
- 2) 持続可能未来に対話や葛藤変容が必要な状況（分断、対立、葛藤その他）の報告
- 3) 対話と葛藤変容のための手法と戦略についての報告・提言
- 4) その他 [ ]

#### 要約・概要

「小さな社会は自分の中にあり、その社会と対峙するための技法が語り部ではないか」

東日本大震災及び福島第一原子力発電所爆発及び避難という体験から語り部として活動してきました。語り部は自分からなろうと動いたわけではありません。はじめは請われて話始めたことがキッカケでした。これまで語り部というイメージは、昔の物語を口伝で伝えるというものがありましたが、実はこの役割は社会的位置ではなく本来家庭の中で年寄がその役割にありました。

しかし現代社会においては核家族となり、その役割が外の社会へと担ったと考えられます。今回の震災でも津波被害を口伝で伝えられてきた方々は、その口伝のおかげで命拾いをしたと揃えて言います。そして、こうした震災は繰り返される悲劇であり未来へのメッセージとして残さなければいけないと認識されるようになりました。

実際には沖縄や広島、長崎、水俣にて多くの犠牲となられた方たちの言葉が心に響き「平和」へと誘われています。

請われて始めた語り部ですが、何度か話を繰り返すなか不思議なことが起こり始めました。まず凝り固まった「恨み」や「怒り」が溶け始めたのです。今なお苦しみが続く中「許す」という境地に立つようになったのです。震災すぐ後にトラウマに襲われました。避難により子供とバラバラになり、少しでも子供と離れると不安になり涙を流すことがたびたびあり、また国や東電に対しても憤怒で言葉にならなかったほどでした。が、現在はそういったものすべてに対して受容している自分がいることに気が付いたのです。それは語り部として話すたびに目の前の人へ語り掛けているだけでなく、自分自身へ問いかけしていたのです。社会とは自分以外に人がいることで社会となります。私は自分の中に様々な「私」がいることに気が付きました。子供と離れて苦しい私、加害者へ恨みつらみを持つ私、そして私とその「私」に聞きます。何が辛いのだと・・・語り部は一つ間違えると不幸のアピールにしかありません。そうではないのです。その被害や不幸から学んだことを伝えることが第一にあるのです。悲しみ苦しみのスパイラルから脱するために語るのだと思います。そしてそれはまた自分自身への受容として生かされるのだと感じました。語り部とは口伝で事実を伝えるだけでなく、苦しみの中にある人が答えを出すためのツールの一つにならないだろうかと考えています。

